



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第444号 2015年8月23日発行

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)
私は敗戦の年の暮に芦屋に生まれました。直接的な戦争体験は記憶にありません。私は母の胎内にいました。母が語った体験によれば、「阪神大空襲で焼夷弾が降り注ぐ中を、布団をかぶって近くの松林へ逃げた」ということです。それは8月6日の未明からB



29による2回の波状攻撃があり、御影・芦屋・西宮を攻撃し、市街地の約30%が焼失し、145人の死者が出ていたのでした。そして、同じその日の午前8時15分に広島に原爆が落とされ、推定約14万人が亡くなられていたのです。
小学校から高校まで一緒だった同期の友人は、同じその朝に、胎内で広島原爆に遭っていました。物静かな彼でし

たが、高校卒業時、卒業生総代の答辞で、当時の教育批判をぶち上げ、新聞を賑わしました。後に彼は教師となり、更に革新系政党の専属として活躍しました。その生き方の根底にあるモチベーションは、それは強烈なものであったことを想像します。
私が生まれる時、^{カマド}で産湯を沸かしてくれた大叔父(長女であった祖母の末弟)は、

平和を考える

戦後70年に思う

司祭 ペテロ 齊藤 壹

したが、戦中は強制収容所に入れられていたことも、随分後で知りました。その下の弟(次男)も、戦後数年して4人の子どもを残して亡くなり、その妻は芦屋にある某造船会社(造船成金^{カマド}だった)の社長宅の女中頭をし、幼い子どもたちを育てていました。たまたま用事で立ち寄ると、そこと応接間を見せてくれました、^{これがお金持ちの家か!}と驚嘆したものです。誤解を恐れずに言えば、戦争準備と開戦

太平洋トラック島での戦闘から生き延びて帰ってきた人でしたが、幼い子どもを残して数年後に結核で亡くなりました。その大叔父は、親が^{逼塞}して苦勞をした祖母の5人兄弟の中で、唯一大学を卒業した人でしたから、姉・兄たちの期待もどんなにか大きかったことでしょう。祖母のすぐ下の弟(長男)は苦勞をして米国で成功し、永住していま

で苦勞されたことでしょう。私が牧師として関わった教会にも、フィリピンでお父さん(聖公会司祭)を戦死で失われた母子がおられました。英国人兵士が、倒れている日本軍兵士の胸ポケットにあった写真を取り出したら、司祭のカラーをつけて赤ん坊を抱いているもので、英国へ持ち帰り、調査して本人を確定し、家族へ渡すために東京まで持ち来たりながら、^{置き引き}に遭って果たせなかつた辛い悲しい話も聞きました。

直接に戦争体験をしていない私でも、思い返せば、戦争はすぐそばにあったのです。旧軍人・軍属とその遺族には恩給が与えられました。しかし、非戦闘員・一般人が戦災で亡くなった場合には、何の補償も与えられませんでした。まして侵略を受けた側、特に東アジアの人々においてをや。私たちには向ける顔がありません。

太平洋トラックス島での戦闘から生き延びて帰ってきた人でしたが、幼い子どもを残して数年後に結核で亡くなりました。その大叔父は、親が^{逼塞}して苦勞をした祖母の5人兄弟の中で、唯一大学を卒業した人でしたから、姉・兄たちの期待もどんなにか大きかったことでしょう。祖母のすぐ下の弟(長男)は苦勞をして米国で成功し、永住していま

それがこの70年間、日本が他国を侵さず、侵されず、人を殺さず、殺されずに来れた。こんな幸せなことはありません。(次頁4段につづく)

2015年沖繩週間

沖繩の旅に参加して思うこと

司祭 テモテ 内田 望

6月21日から始まった今年
の沖繩週間は、辺野古の埋め
立てが始まり、また、国会で
安全保障関連法案が審議され
ている、例年と比べ様相の変

わった中での沖繩の旅となり
ました。

沖繩は、国内で唯一地上戦
に巻き込まれ、たくさんの一
般市民が犠牲になりました。



辺野古海岸で参加者全員が輪になり祈る

6月23日を沖繩県は日本軍
の組織的な戦闘が終結した
日とし、戦没者の霊を慰め、
平和を祈る「沖繩慰霊の日」
としました。この日は、決
して戦争を忘れてはいけな
い特別な日であり、恒久の
平和が一日も早くこの沖繩
の地に実現することを願う
人々の祈りを世界に発信す
る日でもあります。しかし、
戦後70年が経ちましたが、
広大な基地と隣り合わせに
住む人々は日々の騒音に不
安や苦しみや悩み、あるい
は恐怖がまだまだ尽きません。
また、辺野古の海岸に立
ち、潮風を全身で感じ取り、

神がお創りになられた美しい
自然を破壊している光景を目
にしたとき、「沖繩の磯に
立てた十字架は いまも続く
痛みのあるしるし」(聖歌第423
番の3節)として厳しい道程
をしつかりと認識させられま
した。この沖繩の地において
はまだまだ戦は続いている、
そのような胸の痛む思いにと
らわれました。

そんな中、辺野古の海岸で
参加者全員が輪になって、今
も沖繩の磯に立っている「十
字架は 新しい命 生きぬく
ことへの はげます言葉」(聖
歌第423番の3節)となります

人々の思いを知り、祈り続ける

フランシスカ 内海 理沙子

私は2015年6月20日、
23日にかけて開催された「沖
繩週間／沖繩の旅」に参加し
ました。今年には戦後70年、か
つ沖繩戦終戦70年目という大

きな節目の年となっていたた
め、例年より参加者が多く、
大勢の方々と共に平和につい
て学びの時を持つことが出来
ました。

(前頁よりつづく)

ん。この平和とそれを実現さ
せた平和憲法、特に9条は、
戦争で命を失った大勢の人々
の犠牲の上に築かれたものな
のです。このことを今改めて
深く心に刻みましよう。今、
それが危うくなってきた

ように心を合わせて祈りを献
げました。あらゆるものの命
を大切に「命どう宝」を
合言葉に、沖繩の歴史が歩ん
だ厳しい現実をしつかりと踏
みしめつつ、追体験しつつ、
改めて平和の尊さを考えさせ
られた旅になりました。

(うちだ のぞむ・堺聖テモ
テ教会牧師、聖ルカ教会管
理牧師)

のです。イエス様のみ言葉通
り、平和を実現する者になり
ましよう！

(さいとう はじめ・大阪聖
愛教会・大阪聖三一教会牧
師、聖バルナバ病院チャプ
レン(非常勤)、博愛社チャ
プレン(非常勤))

1日目は、1959年6月
に起きた宮森小学校ジェット
墜落事件を元にした映画「ひ
まわり」を鑑賞し、2日目に
はその事件当時、宮森小学校
の5年生だった久高政治さん
の講演会に参加しました。過
去のものとして扱われつつあ
る事件について知り、現在も
沖繩の人々が危険にさらされ
ていることを学びました。3
日目は、辺野古の座り込みに
ついて学びの時を持ちました。
命がけで新基地の建設に反対
している方々のお話を聴き、
大浦湾にて全員で平和の祈り
を献げました。そして、最終
日には沖繩教区「慰霊の日」
礼拝が行われました。多くの
人々や各教区の主教様ととも
に、平和のため、また戦争に
よる犠牲者の方々の魂の平安

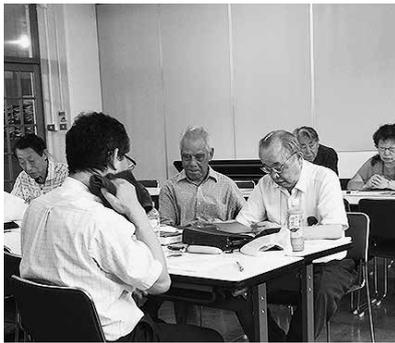
(次頁4段につづく)

大阪教区在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会

戦後70年にあたって学習会

司祭 ペテロ 岩城 聰

去る7月18日、大阪城南キリスト教会において、「日韓キリスト教と戦後70年―日本における教会と在日韓国・朝鮮人」というテーマで学習会が開かれました。戦後70周年を考える一環として、教区の在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会が主催したものです。委員会はその後、「ヘイトスピーチ」についての学びを行い、9月19日に行われる管区の正義と平和委員会主催の戦後70講演会（会場：神戸聖ミカエル教会、講師：池住義憲氏）に備えることにしています。



7月18日の講師は、日本基督教団梅花教会牧師の後藤聡牧師でした。後藤師は、NCの都市農村宣教委員もされ、日韓の問題、日韓キリスト教の問題については深い造詣をお持ちであると共に、沖繩が抱える諸問題についても鋭い問題提起を発信し続けておられます。当日はあいにく台風の余波で交通が乱れ、出席者

も10人をわずかに超える程度でしたが、それだけに当日のテーマに深い関心を持っておられる方が多く、熱心に耳を傾けておられました。後藤師は、明治以来の日本の富国強兵政策と植民地支配について歴史的に振り返ったのち、エキユメニカルな視点から社会の諸課題を取り上げ、それらが現代社会では極めて多様化していることを指摘し、日韓双方の教会がそれらにどう関わっているかを縦横に語られました。そして最後に、牧師として「大したことはできないかもしれないが、課題

2015年度 大阪教区 神学生を囲むつどい



ウィリアム・ユーワン・ヒューム神学生を囲んで

日時 8月30日(日) 午後2時30分～4時30分
会場 川口基督教会
会費 無料
主催 大阪教区神学生後援会

2015年度 大阪教区礼拝

日時: 10月4日(日) 午前10:30
場所: プール学院 (勝山キャンパス) 清心館 (JR環状線桃谷下車)
司式・説教: 主教 アンデレ 磯 晴久 師父

年に一度、ともに集い 皆さんで神様を賛美しましょう。

（前頁よりつづく）
をお祈りしました。
この旅で見たような活動を私たちが実際に行くことは難しいかもしれませんが、しかし、それが出来ないからといって、無関心のまま何ももしないのは間違っていると思います。悲惨な事件や現地の人々の思い

に関わることによって、《神の宣教》に参加し、自らも変えられてゆく」と締めくくられました。

（いわき あきら・大阪教区在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会委員長、川口基督教会牧師）

を知り、これらを忘れることがないよう祈り続けなければならぬと感じました。今回の旅でお世話になった多くの方々と、このような貴重な機会を与えてくださった神さまに感謝いたします。（うつみ りさこ・川口基督教会信徒）



2015 夏キッズ
「みんなで祈ろう・主の祈り」
に参加して
ヨハンナ 秋山 公子

台風一過、天候に恵まれ、7月20日(月・休)に大阪教区子ども礼拝「夏キッズ」が、川口基督教会で行われました。子ども20人、大人52人、総勢72人が、テーマ「主の祈り」を分かち合いました。礼拝堂に集まり、賛美を声高らかに歌い、プロジェクトでスクリーンに映し出した「主の祈り」の絵本を見ながら、共に「主の祈り」を復唱しました。

ワークシヨップは7チームに分かれ、神学生、聖職候補生や青年リーダーの楽しく優しい指導の元で学び、練習をしました。私はイラスト・クラフトチームでお手伝いをしました。幼児・小学6年、7人が参加し、お絵描き、主の祈りカードの額縁飾り、紙粘土工作で、好きな物を作りました。キラキラシール、花や動物型のフェルト等、可愛い小物がいっぱい準備され、子ども達は楽しそうに思い思いの物作りに励みました。初めての試みで、中庭で鳴らされたチャイムを合図に全員がその場で、心を一つに「主の祈り」を唱えました。就学前の子どもも大きな声でしっかりと唱えている姿に感動しました。午後からは仕上げに入り、アイデア満載の作品を中庭に展示しました。いよいよメイソンの「みんなで礼拝」。トーンチャイムの点鐘が始まり、

サーバーが厳かに入堂し、音楽、手話チームのリードで賛美し、千松清美司祭のお話を聴きました。全員で「主の祈り」を唱え、イエス様の豊か

大阪聖パウロ教会 130周年記念礼拝
歴史と伝統の継承を目指す



セバスチャン 岡本 正

去る6月27日(土)に大阪聖パウロ教会130周年の記念礼拝を挙行いたしました。当日は、心配された天候にも恵まれ、新任の磯晴久主教を始めとして教区の聖職・信徒の方々、当教会入居団体関係者、日本キリスト教団牧師など約120人の出席をいただきました。聖堂の仕切りを取

な愛と御守りを感じ、最高の礼拝を献げることが出来ました。フィナーレは中庭で連合男子会のカキ氷と綿菓子を楽しみながら談笑。賛美の歌声に

り払い、2階フロアを埋め尽くすほどの多数の方々と共に感謝の礼拝をささげることができました。当教会員一同、この大きな喜びをお与えいただきましたことに厚くお礼申し上げます。当日の説教は、かつて100周年の時に当教会の牧師として労を取られた竹内信義司祭にお願いいたしました。その話の中で、まだ曾根崎の地に当教会があった頃の一つの逸話がありました。その頃、堂守の勤めをも果たされていた信徒の小林熊次郎さん(故人)は、戦時中、空襲警報が出ると、先ずは「信徒の教籍簿」を抱えて防空壕に避難した、とのこと。このエピソードは、人の行動の、いざというときの判断の大切さの教訓として深く受け止められるものです。さらに、曾根

合わせて、ダンスチームが活気あるダンスを見せてくれ、みんなで盛り上がりました。(あきやま きみこ・大阪聖ヨハネ教会信徒)

崎時代に当教会の牧師であった清家智光司祭が駆けつけて下さいました。今は、名峰八ヶ岳の麓の町、清里(山梨県)でご奉仕されています。礼拝後の小宴で、懐かしいお話を伺い、感激も一入でした。当教会の130年の歴史を築いてきた先人達の多大な苦勞の上に、現在の教会と信徒が存在しています。その歴史と伝統を明日へ継承していくことが使命であり、責務と考えます。このたび、当教会のために祈りをささげて下さいました方々に改めて心より感謝申し上げますと共に、これからも当教会の歩みに導きをお与え下さいますようお願い申し上げます。最後に、心より神に感謝し、新たな出会いにお導き下さるようお祈りいたします。(おかもと ただし・大阪聖パウロ教会信徒、130周年記念事業委員長)

「信徒の学び」出張講座

祈りと賛美―「ゆりかごから天国まで」

スザンナ 米田 久美子

6月28日に大阪南地区4教会（聖アンデレ、聖ガブリエル、大阪城南キリスト、大阪聖愛）合同礼拝が、大阪城南キリスト教会で行われました。この礼拝の後、午後1時半から、礼拝・音楽委員会と生涯学習委員会による「信徒の学び・出張講座 祈りと賛美と

共に「ゆりかごから天国まで」(第1回)が開かれました。参加者は午後から来られた方も含め、51人でした。内田望司祭より祈禱書の改訂・編纂の意図について、また川口基督教会オルガニストの辻彩乃さんより、聖歌集の性格や改訂の特徴、使い方についてお話を伺いました。

その中で、印象深かったのが、聖歌集は祈禱書に準拠する「礼拝用書」であるということ。聖歌の部の構成を見ると、祈禱書との整合が図られていることが分かりました。

祈禱書の目次は、「ゆりかごから天国まで」つまり、私達の一生涯を「キリストの体」である教会に委ねていることを教えている、と伺いました。そして洗礼式から逝去者記念の式までの11項目のうち、内容に添った聖歌をいくつか実際に歌いました。その解説の



写真は第2回講座
(石橋聖トマス教会)

中で「共同体」という言葉が何度も出てきました。洗礼によって神の民とされた私達は教会という共同体の中で、共にいて下さる神様に従って生き、生涯を終えた後もイエス様と共に永遠の命に与ること

が出来ると、この学びを通して、改めて神様が共にいて下さることを覚え、常に感謝を持って礼拝に臨みたいと思いました。

員)は、21ページの資料を用意し、丁寧に話して下さいました。宣教師を中心としたキリスト教の受容・拡大から、1597年のサン・フェリーペ号事件を境に、迫害・弾圧を経て明治6年のキリシタン解禁までを語るには、とても時間が足りないことを実感しました。また、堺・高槻・河内などの日頃なかなか聞けない大阪のキリシタンのことなど、新鮮な思いがしました。

特別出前・出張講座「歴史編」第1回

受容の38年と拒絶の286年をめぐって

司祭 ペテロ 竹林 徑一

歴史に関心のある人が、結

構たくさんおられるなあというの、第1回を終えての感想です。教区宣教部・生涯学習委員会と歴史編集委員会がタイアップして、初めて「教会信徒のための学び」出前出張講座「歴史編」を7月11日(土)午後2時から中央区の大阪聖ヨハネ教会で開催しました。参加者約30人。

将来的には、日本聖公会史・大阪教区史・諸教会史へと身近な歴史をたどるためのウォームアップを兼ねて、日本キリスト教前史「フランススコ・ザビエルから、江戸時代末期まで」を、講師の西口忠さん(桃山学院史料室 特別研究

員)は、21ページの資料を用意し、丁寧に話して下さいました。宣教師を中心としたキリスト教の受容・拡大から、1597年のサン・フェリーペ号事件を境に、迫害・弾圧を経て明治6年のキリシタン解禁までを語るには、とても時間が足りないことを実感しました。また、堺・高槻・河内などの日頃なかなか聞けない大阪のキリシタンのことなど、新鮮な思いがしました。

午後2時から、「川口居留地と宣教師たち」というテーマで、居留地跡に建つ川口基督教会で開催されます。会場と資料準備の都合上、初めての方は10月13日までに下記の石橋聖トマス教会・千松清美司祭宛に申し込んでください。(たけばやし けいいち・教区歴史編集委員会委員長、大阪聖ヨハネ教会牧師)

石橋聖トマス教会・千松清美司祭
FAX06-6854-8657
E-mail:st.thomas-ishibashi@sunny.ocn.ne.jp



「京都・大阪教区合同教役者会」に参加 二つの教区の貴重な機会を見る

聖職候補生 ペテロ 金山 将司

去る6月30日(火)から7月2日(木)までの2泊3日間、福井県小浜市で行われた京都・大阪教区合同教役者修養会に参加してまいりました。

大阪教区からは10人、京都教区からは26人の教役者が参加

し、計36人の教役者が集まり、合併、堅信前陪餐、そして原発問題を共にわかちあいました。

1日目のセッションの合併、そして2日目の堅信前陪餐のテーマでは、両教区の教役者が各々の意見を交わし、時間を忘れて、熱く議論しました。

また特に合併については、賛成意見のほか、現状をふまえた意見が様々な立場から出され、現場に身をおいてきた教役者の経験から導かれるそれらの意見は、教役者として歩み始めた私に、教会での働きが人に仕える苦勞と喜びにあふれている、ということを感じしと感ぜさせる内容でありました。

最終日のセッションでの真言宗御室派桐山明通寺住職の中蔦哲演師のお話は、東日本大震災によって注目される前から反原発活動に携わり、黎明期から活動に身を投じ続け

たその闘いのことでありました。哲演住職はブツダの「すべての命は尊い」という言葉でお話を締められたのですが、この言葉はこれまでの哲演住職の反原発活動の根拠のような、大切なものであると私は感じました。原発問題について東日本大震災という大きなイメージにとらわれない純粋な「否」というご意見を聞けたことは、原発問題にこれからも関わっていく一人として多くの示唆を得られたと思っています。

「二つの教区が具体的な合併の問題をわかちあう」ということは、日本聖公会では京都教区と大阪教区だけであります。この貴重な両教区の交わりと議論の機会をこれからも保ち、神様により良い教会のあり方をお示しくださることを日々祈ります。

(かなやま まさし・芦屋聖マルコ教会勤務)

博愛社 創立 125 周年記念事業

博愛社実践報告会

☆「乳児保育園の一年」

…… こひつじ乳児保育園 金 瑛美 和田聡美

☆「保育園のあそび」

…………… 博愛社保育園 船奥 雄太

☆大阪大学学習ポラティア

「フロンティア」の活動について

… 児童養護施設 博愛社 ヨルダン館 西中 智子

☆「三陸園から学んだこと」

… 博愛の園 松村 唯 坂本 康一郎 角 静香

☆「震災から4年」

…………… 岩手県大槌町吉里 三陸園からの報告

日 時： 2015年9月27日(日) 13:30～16:30

会 場： 博愛の園 1F 地域交流センター

交流会： 17:00～19:00 地域交流センター

問い合わせ先： 博愛の園 Tel.06-6301-8901

大阪教区婦人会

秋の修養会

日 時： 10月19日(月) 午後1時

場 所： 大阪聖愛教会

講 師： 長尾真由美さん

(淀川キリスト教病院

ホスピス・こどもホスピス病院 看護部長)

テーマ： 輝く子どものいのち — こどもホスピスの紹介

献金先： ホスピス・こどもホスピス病院の働きのために

ネパール大地震被災者支援献金

(大阪教区事務所を通じて管区事務所に)



OK委員会はいま??

大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会報告

執事 出口 崇

2015年度の大阪・京都教区合同教役者修養会が6月30日～7月2日に福井県小浜市にて開催されました。今年で合同修養会は11年目になります。

その初日に、教区合併について、大阪教区の岩城聰司祭(常置委員・OK委員)から合併についての経過報告があり、その後、分かち合い、グループに分かれて話し合いがなされました。

全体での質疑応答の中で、大阪教区はすでに全教会に説明が一応終了しており、強い反対意見は出ていないが、京都では教会数の違いもあり、説明が行き届いていないとい

う違いが浮き彫りになりました。現在京都教区では伝道区単位での説明会、希望のある教会に主教または、OK委員長が伺い説明会を開催しております。また10月12日には教区会代議員に対しての説明会を行います。

修養会では様々な意見が出されましたが、現状のままでは両教区とも疲弊していき存続できないのではないかと、う危機感があり、「教区合併」が現状を打破するために打てる数少ない手の一つであることは参加した教役者が共有していました。

また、当委員会の任務の一つに「合併後のビジョンの提示」があります。合併後の教区のビジョンを現段階で明確にするのはとても難しいことですが、2011年の教区会でOK検討委員会が設立された時の常置委員会からの提案理由に「両教区の間には、教役者給与や勤務地の広がり、の問題、チャーチマンシップの違いなど埋めるべき課題は少なくないが、むしろ、多様性を受け入れることによ

り、礼拝・宣教・牧会における発想と展開、さらには教区組織体制や人事配置など多くの面で新たな可能性を期待することができると期待する。合併への前向きな取り組みがそれぞれの教区の将来に向かって重要な礎となることを両常置委員会と信じるものである(抜粋)とあります。「これがビジョン」とは言い切れませんが、委員会でもさらに深めたいと思っております。また当委員会の活動は上記のような、未来における明るい希望だけではなく、両教区の青少年キャンプなどで既に現実のものとなっております。「豊かさ」の実感を更に広げて行きたいと考えています。

多くの方に関心を持っていただきながら、情報発信が不足しており申し訳ございません。9月に「OKニュースレター」を発行する予定です。(でぐち たかし・大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会広報担当・京都教区執事)

世界の窓

◎米国聖公会で初のアフリカ系総裁主教が選出

米国聖公会はユタ州ソルトレイクシティで開催された総会において、ノース

キャロライナ教区主教でアフリカ系のマイケル・カリー神父(62歳)を、第27代総裁主教に選出した。アフリカ系総裁主教の誕生は米国聖公会では初めてのことで、これは歴史に残る快挙である。カリー主教は4人の候補者のひとりであり、174票中121票(当選必要票89)を得て選出された。彼は現総裁主教キャサリン・ジェファーツ・シヨリ博士の後を引き継ぎ、11月1日から9年間の任期に就くことになる。(Anglican Communion News Service: June 29th, 2015)

◎米国聖公会総会で同性婚が可決

同性婚が米国最高裁判所によって合法化されたことを契機に、米国聖公会はユタ州ソルトレイクシティで開催された7月1日の総会において、

平等な結婚を執行するための教会法的、典礼的な変更を行った。総会代議員団は主教団がすでに承認している「男女間の結婚という限定的な用語の削除」(決議案A036)、および「同性または異性カップルという用語を使用した二種の新しい結婚儀式を承認する」(決議案A054)という決議案に同意した。両決議案は20分ずつ討論された後、投票が行われ(決議案A036)は聖職票、賛成85、反対15、信徒票、賛成88、反対12で可決された。

また、(決議案A054)も同様に聖職票、賛成94、反対12、信徒票、賛成90、反対11で可決された(両決議案の無効票数は省略した)。なお、米国聖公会では同性愛に反対する一部の教会が離脱し、2009年にカナダとアメリカに28の教区を有する北米聖公会(アングリカン・コミュニオン)には属していないが成立している。

(Anglican Communion News Service: July 2nd, 2015)
(司祭 ヤコブ 松平 功・桃山学院大学チャプレン)

カナダ聖公会トロント教区から大阪教区に移籍して来られたウイルソン ウォーレン (Warren Wilson) 司祭をご紹介します。ウイルソン司祭は1953年4月15日カナダ生まれの62歳。かつてプーアル学院大学短期大学部や梅田学園英語専門学校で教鞭をとられたことがあり、当教区とも馴染みの深い方である。京都教区で聖職志願をされ、1990年11月に司祭按手。その後、加悦聖三一教会、宮津聖アンデレ教会、東舞鶴聖パウロ教会、金沢聖ヨハネ教会の牧師・管理牧師および併設の幼稚園・保育園の園長を歴任された。日本語が大変堪能で、ユーモアあふれるお人柄。2001年、カナダ聖公会東部のムースニー教区、後にはトロント教区に移り、司祭として働かれた。神学校はウイ

カナダ聖公会から来られた ウイルソン司祭の紹介



ウロ教会副牧師に任命され、洋子夫人とともに来年3月までは聖ガブリエル教会牧師館

ックリフで、山根貞夫司祭の後輩でもある。ウイルソン司祭は8月1日付けで大阪聖パ

に住まわれる。毎月第3主日は聖ガブリエル教会勤務、それ以外の主日は、英語礼拝も含めて大阪聖パウロ教会でご奉仕くださる。週日は週3日大阪聖パウロ教会、週2日は川口基督教会で勤務される。古巣に聖職者として戻られたウイルソン司祭のお働きの上には、神様のお恵みをお祈りします。(編集部)

教区英語礼拝のお知らせ

8月の教区英語礼拝(第4主日)はお休みです。永年ご奉仕いただいたジョン・バーグ司祭(神戸教区MTSマリナーズ・センター)は、日本での任務を終え英国に帰国されました。9月27日(日)から毎月第4

主日午後4時に、神戸教区の協力でミッシェン・トウ・シーフェアラーズ(神戸マリナーズ・センター)チャプレンのポール・マイケル・トルハースト司祭と大阪教区からウイルソン・ウォーレン司祭(大阪聖パウロ教会副牧師)が協働で教区英語礼拝(聖餐式)を担当されます。ぜひ、一度ご出席ください。

内閣総理大臣 安倍晋三 殿
衆議院議長 大島理森 殿
参議院議長 山崎正昭 殿

安全保障関連法案の強行採決に抗議し、 法案の撤回を求める緊急声明

わたしたちイエス・キリストの教えに忠実であろうとする日本聖公会大阪教区および日本聖公会京都教区の教役者有志は、安倍政権が今国会の衆議院特別委員会および衆議院本会議で強行したいいわゆる「国際支援法案」および「平和安全法制整備法案」の採決に強く抗議し、本法案の撤回・廃案を求めます。

これらの法案は、日本国民が戦後の国際社会の中で長らく追求してきた平和国家への道を完全に塞ぎ、日本を「いつでも」「どこでも」「切れ目なく」戦争を行うことができる国に変えるための法案です。しかも、首相自身も認めているようにまだ法案に対する人々の理解ができていない状況において与党のみで強行採決を行うことは、民主主義・法治国家を破壊しようとする暴挙であると言わざるをえません。

日本および世界の世論は、こうした安倍政権のやり方を非常に危険なものであることを見抜き、不戦を誓った日本国憲法に真っ向から違反していると考えています。憲法学者の圧倒的多数がこれらの法案は憲法違反であるという意見を述べているのはその一つの表れです。日本国憲法第9条は、明確に「武力による威嚇および武力の行使の放棄」「戦力不保持」「交戦権否認」を謳っています。これは過去の戦争において、自国民とアジアおよび世界の諸国民に与えた大きな命の犠牲と塗炭の苦しみに対する反省から生まれたものです。今安倍政権が強行成立させようとしている法案は、こうした戦後の自国民と諸国民の願いを踏みにじり、「同盟国」アメリカの戦争に積極的に参加することを目的としています。「戦争に巻き込まれることはない」という安倍首相の言葉は、戦争の現実を無視した空論であり、実際には日本が危険な戦闘行為に投げ入れられることは自明です。

イエス・キリストが祝福された「平和を愛する」者であろうとするわたしたちは、戦争準備を可能にするこれらの法案に強く反対するとともに、民主主義の原則を破壊する強行採決の暴挙に抗議するものです。

2015年7月17日

日本聖公会大阪教区・京都教区教役者有志 (40人)

公 示

救主降生2015年5月1日
日本聖公会大阪教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

下記のように人事異動を発令します。

- 主教 ヤコブ 宇野 徹 5月1日付、司祭クリストファー奥村貴充のもと聖贖主教会において囑託司祭として第1主日勤務を委嘱する。
- 司祭 ウィリアムス 竹内 信義 5月1日付、管理牧師、司祭クリストファー奥村貴充のもと大阪聖パウロ教会において囑託司祭として第4主日勤務を委嘱する。

以上

救主降生2015年8月1日
日本聖公会大阪教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

下記のように人事異動を発令します。

- 司祭 ジョージ 林 正樹 7月31日付で休養を解き、8月1日付で大阪聖パウロ教会牧師に復帰することを命じる。
- 司祭 クリストファー 奥村 貴充 7月31日付で、大阪聖パウロ教会の管理牧師の任を解く。西宮聖ペテロ教会において第3主日勤務することを命じる。
- 司祭 ウイルソン ウォーレン カナダ聖公会トロント教区から、日本聖公会大阪教区への転籍を認可し、8月1日付で大阪聖パウロ教会副牧師に任命する。主日勤務に関して、第1・2・4・5主日は大阪パウロ教会、第3主日は聖ガブリエル教会で勤務とする。週日勤務に関して、原則火曜日・水曜日・木曜日は大阪聖パウロ教会、金曜日・土曜日は川口基督教会で勤務とする。
- 司祭 ウィリアムス 竹内 信義 7月31日付で、大阪聖パウロ教会における第4主日勤務の委嘱を解く。8月1日付で、司祭クリストファー奥村貴充のもと、聖贖主教会における第3主日勤務を委嘱する。
- 司祭 ヨハネ 奥 康功 尼崎聖ステパノ教会における第4主日勤務の委嘱を解き、司祭ペテロ齊藤壺のもと、大阪聖三一教会において第4主日勤務を委嘱する。
- 司祭 ヨハネ 木村 幸夫 芦屋聖マルコ教会における第2主日勤務の委嘱を解き、第4主日勤務を委嘱する。司祭パウロ井上進次のもと、尼崎聖ステパノ教会において第2主日勤務を委嘱する。
- 主教 ヤコブ 宇野 徹 7月31日付で、聖贖主教会における第1主日勤務の委嘱を解く。

以上

教区の動き

常置委員会報告

6月8日(第10回定例)

I. 主教報告

* 日本聖公会（宣教・牧会の10年）提言（2012年宣教協議会）の具体化について。
* 主教会で性的少数者のユニオンは、現時点では結婚とは言えないが、祝福することはできることを確認した。

II. 協議事項

* 木川田主教夫人からの献金、故久野利子姉（堺聖テモテ）よりの遺贈金使途について協議（2015年度教区会に諮る）。

* 「堅信前の陪餐」について、信徒の学びの時を持つ。

教会・施設の動き

大阪聖ヨハネ教会

○7月2日（木）、17人が富田林金剛の聖ルシヤ教会を訪

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 9月9日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者：ウイリアムス 竹内信義司祭
 4日 執事 ラザロ 布施好古 (1938)
 6日 主教 ヨハネ 名出保太郎 (1945)
 9日 司祭 ジェームズ・J・チャプマン (1946 英)
 11日 司祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド (1941 英)
 12日 主教 ヘンリー・エヴィントン (1912 英)
 14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイelson (1963 英)
 23日 主教 ペテロ 柳原 貞次郎 (1973)
 司祭 ドナルド・F・ウインズロー (2000 米)
 25日 司祭 田中 正之助 (1927)
 27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー (1977 英)

◇ 10月14日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者：ペテロ 竹林徑一司祭
 2日 司祭 ジョージ・チャプマン (1940 英)
 9日 主教 ヨハネ 山田 襄 (1993)
 12日 司祭 マルコ 岡 精三 (1997)
 16日 主教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)
 主教 サムエル・ヘーズレット (1947 英)
 18日 司祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)
 20日 司祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949 英)
 23日 司祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)
 24日 司祭 深田 直太郎 (1945)
 司祭 ペテロ 横田 久明 (1995)
 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971 英)
 29日 司祭 セオドシアス・ステファンズ・ティング (1927 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

問し、合同の礼拝をささげました。午後は心づくしの食事
をいただき、楽器シターの演奏と朗読、金司祭のギター、合唱など交流の時を楽しみました。
尼崎聖ステパノ教会
 ○5月31日 (日)、豊中服部緑地外国人墓地にて野外礼拝を行いました。
 ○6月28日 (日) 午後2時より、阪神間三教会の集いをおかねて、牧師館・駐車場リニューアル記念「すてぱの寄席」

が催され、90人近い出席者がありました。
石橋聖トマス教会
 ○7月15日 (水) から、教会の固定電話を光回線にしました。それに伴って、FAX番号が電話番号と同じになりました。Eメールアドレスも変わりました。
 電話・FAX 06-6854-8657
 E-mail: st.thomas-ishibashi@sunny.ocn.ne.jp



祝受洗

○大阪聖アンデレ教会
 リディア 栗山美奈子 (4月5日)



祝受按

○守口復活教会
 アグネス 山本 裕子 (7月5日)



魂の平安を祈ります

○大阪聖三一教会
 ハンナ 勝見英美子 (5月15日・81歳)

○川口基督教会
 グレース 永橋佐智子 (7月2日・25歳)

バルナバ 岡 源郎 (7月3日・83歳)

○大阪聖アンデレ教会
 ミリアム 大里 鉄子 (7月2日・100歳)

ユニケ 西川 寿代 (7月9日・94歳)

○堺聖テモテ教会
 エステル 堀 幸子 (7月3日・93歳)

○芦屋聖マルコ教会
 永木 長代 (7月12日・83歳)

○高槻聖マリヤ教会
 辻本 一馬 (7月12日・84歳)

○石橋聖トマス教会
 フランシスコ 坪田 邦夫 (7月27日・81歳)

お詫びと訂正

教区報第443号の掲載記事に、以下の間違いがありました。訂正してお詫びいたします。

14頁・教区関係教役者 逝去者記念聖餐式の日程

(誤) 7月15日 (水)
 (正) 7月8日 (水)